

徳島赤十字病院初期臨床研修プログラム：麻酔科

コース責任者：若松 成知

研修期間：選択科として4週間から

I：一般目標 (GIO: General Instructional Objective)

麻酔科医の役割を理解し、麻酔科領域における基本的な診療能力（呼吸、循環、疼痛、体液管理）を身に付け、他の専門診療科医師やメディカルスタッフと協調して適切な周術期管理を行うことができる。

II：行動目標 (SBOs: Specific Behavioral objectives)

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 診察法・検査・手技

①主な医療面接・基本的な身体診察法

- 1) 術前の医療面接と系統的な身体診察、基本的な臨床検査を行い、全身状態を正確に評価でき、診療録へ記載することができる。
- 2) 麻酔中の呼吸循環状態を理解し、指導医または上級医へ正確に病状及び病態を報告することができる。
- 3) 麻酔後、回復室にて必要な術後状態の把握ができ、麻酔との関連を理解することができる。

②主な基本的な臨床検査

- 1) 術前検査の結果を評価することができる。

③主な基本的手技

- 1) 術前患者の全身状態を適切に評価し麻酔計画を作成する。気道確保、人工呼吸、気管挿管、静脈確保、採血、胃管挿入などの基本的手技を指導医または上級医の指導のもとで習得することができる。

III：学習方法 (LS: Learning Strategy)

1) LS (方略) 1: On-the-job training

- ・手術室での” On-the-job training” を中心とした麻酔科診察に参加する。指導医または上級医とともに治療にあたる。

- ・麻酔室に必要な薬剤の薬理を理解する。
- ・周術期の輸液、輸血管理を理解し、実施する。
- ・回復室や病棟での術後疼痛管理の手順を指導医または上級医のもとで習得する。
- ・術後の疼痛管理を理解し、指導医または上級医のもとで習得する。

2) LS (方略) 2: カンファレンス・勉強会

- ・術前カンファレンスにて担当患者の症例提示を行い、問題点や麻酔計画についての意見交換会を行う。
- ・麻酔科抄読会、救急部合同症例カンファレンス、救急部合同抄読会に参加し意見交換を行う。

3) LS (方略) 3: 学会・研究会・学術活動

- ・学術講演会や各種の院内研修（医療安全や感染対策など）に積極的に参加し、学会発表や症例報告論文を作成する能力を身に付ける。

○週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	手術室でOJT 抄読会	手術室でOJT	手術室でOJT 抄読会	手術室でOJT 救急部合同 症例カンファ レンス	手術室でOJT 救急部合同 抄読会
午後	手術室でOJT 症例カンファ レンス	手術室でOJT 症例カンファ レンス	手術室でOJT 症例カンファ レンス	手術室でOJT 症例カンファ レンス	手術室でOJT 症例カンファ レンス

IV : 学習評価 (EV : Evaluation)

EPOC による総合評価

- 1) 個々の診療記録と退院要約（サマリー）は、定期的に指導医の評価と承認を受ける。
※退院要約（サマリー）は、1週間以内に記載すること。
- 2) ローテイト研修終了時に、EPOCに診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 3) 診察態度や協調性について看護部及びメディカルスタッフ等による360度評価を行う。